

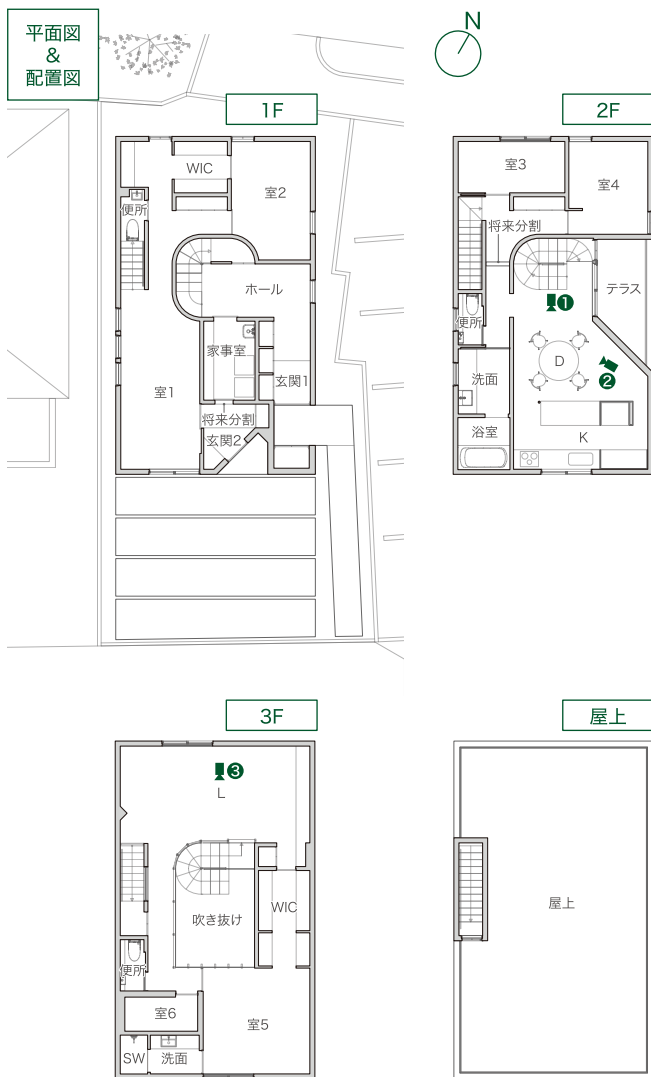
設計	吉田豊建築設計事務所
施工	有限会社 ハウジング西本
竣工日	2022年8月11日

◎建物概要

建設地	広島県広島市
敷地面積	144.26㎡
延床面積	194.43㎡
構造・規模	木造3階建

◎設備面の特記

厨房機器	IHクッキングヒーター
給湯機器	ガス給湯器
冷暖房機器	エアコン・床暖房



①2階のダイニングキッチン。3階の開口部からも光が注ぎ、日中は常に様々な向きの開口部からの柔らかな光に包まれている。
②1階から3階まで貫く螺旋状階段。2層にまたがるLDK空間を、動線、そして視覚的効果として接続している。



③3階リビングから吹き抜けを見る。吹き抜けのガラス越しに水平方向、下階方向へと視線が繋がる。

設計コンセプト

敷地周囲は西・北側に低層住宅が隣接し、東側の幹線道路沿いには中層の店舗付き集合住宅の立ち並んだ街路景観が形成されている。

三世代6人家族の住まいとして家族それぞれの居場所があること、また家族構成の将来変動を見据えた計画が求められた。二世代目となる夫婦だけの生活を見据え、間仕切り壁を追加し、水回りを増設することで、新たな二世帯の住宅へと改変する時間軸を持った住宅計画となっている。

中層の街路景観に溶け込むように矩形のボリュームを重ねさせた内部は、将来の改装時の手数を最小限にするように、諸室構成と動線設定を丁寧にシミュレーションし、壁を2箇所新設することで住戸が完全に分離される計画とした。各々

の諸室は中央のらせん階段やその他の階段によって縦方向に繋ぎ、動線が互いに絡まることで、立体的に回遊可能な構成となっている。

この内部空間の連続体に、テラスや吹き抜けを挿入し、上下、水平、斜めへと様々な抜けをつくり、その延長に外部へと繋がる開口部を重ねることで、様々な方向から差し込む優しい光に包まれた白い闇のような空間を創出した。2つに分節可能な生活の場を単純な箱の中で絡め合いながら集約させたこの住宅は、内部空間同士の立体的な交錯の先の開口部と共に、手を伸ばすようにやさしく周辺環境に繋がる生活の場として結実した。

審査委員講評

外観のシンプルな佇まいから一転、内部では2つの階段による立体的で回遊性をもった有機的な空間が広がっている印象的な住宅である。将来を見据えた三世代の暮らしを考えた空間構成は、まさに住宅とは動的なものであることをあらためて感じさせると同時に、現在から未来へ向けた多様な可変性を持ち合わせた計画として実現している。